

中学生版 ブックリスト

ビーだま

<編集・発行>

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273

平成26年4月23日発行

(年2回発行)

2013年 No.35

2013年7月～12月に図書館に入った本の中から、
とくにおすすめの本を紹介します。

庭師の娘

ジークリート・ラウベ/作 若松宣子/訳 中村悦子/絵 岩波書店

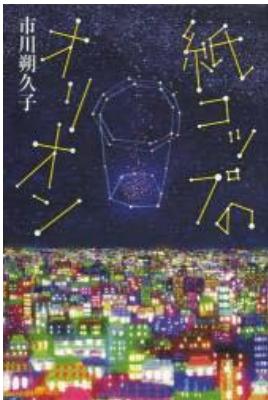


庭師の娘マリーは、草花が好きで庭師になりたいと思っているが、父親の希望で修道院に入ることになっている。彼女の才能を知るメスメル博士の屋敷の庭造りを任されたマリーは、これまでになく自然を生かした庭を作り上げた。

18世紀後半のオーストリアを舞台に、モーツァルトやメスメル博士など実在した人物を織り交ぜながら、自分の将来を自らの手で切り開こうとする少女の姿を描く。

紙コップのオリオン

市川朔久子/著 講談社



ろんりは、母・^{けいふ}継父・妹と暮らす中学2年生。4月の終わり、突然母がいなくなる。いつ帰るかわからない撮影旅行に出たらしい。一方、学校で創立記念行事の実行委員になった論里は、母の写真から思いついたキャンドルナイトを提案した。実行委員の中心となるが、なかなかうまくいかない。しかし、周囲の協力もあり、冬の夕方、とうとう本番を迎えた論里たちは灯りを点す。

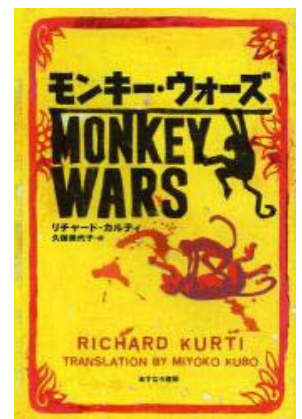


モンキー・ウォーズ

リチャード・カルティ/作 久保美代子/訳 あすなろ書房

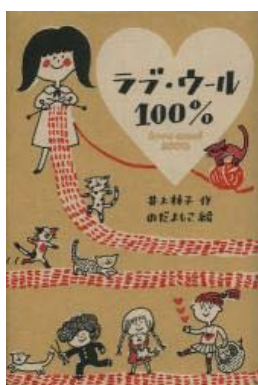
レスス族の若いメスのサル、パピーナはラングール族の襲撃に^{しゅうげき}合い、父と家を失う。しかし、偶然知り合ったラングール族のミコの優しさを知り、友情を深めるようになる。一方、ラングール族による他の部族のサルたちへの攻撃は激しくなっていく。

パピーナのためスパイとなったミコは、知恵を頼りに独裁者に立ち向う。



ラブ・ウール100%

井上林子/作 のだよしこ/絵 フレーベル館



アミコは、編み物の本のカバーの裏側に小さく書かれていた「編み方教えます」の文にひかれ、ニット・カフェを訪ねる。そこにいたのは魔法使いのようなモヘア先生だ。そのカフェには個性的な生徒たちが通っていた。はじめは距離をおいていたアミコだが、次第に彼らの本当の姿を知り、仲良くなっていく。

14歳、ぼくらの^{しっそう}疾走 マイクとチック

ヴォルフガング・ヘルンドルフ/作 木本栄/訳 小峰書店



ベルリンに住むマイクは、学校ではめだたない少年だ。夏休みに思わぬ成り行きで、変わり者の転校生チックと旅に出ることになる。

盗んだポンコツ車に食料を詰め込み、〈どこか遠く〉へ向かい走り出す二人。道中、ガソリンがなくなったマイクとチックはゴミの山で出会った不思議な少女に助けられた。

光のうっしえ

朽木祥/著 講談社

広島元安川ではお盆に色とりどりの^{とうろう}灯籠が流される。原爆が落とされてから25年後の夏。そこで、^{のぞみ}希未は見知らぬ女性に声をかけられた。母のことを訪ねたその婦人は、希未の顔を見つめ涙を流す。

今なお原爆によって心を痛め続ける人がいることを知った希未は、同級生と一緒にあの日の出来事を調べることにした。



魔法の言葉

コルネーリア・フンケ/作 浅見昇吾/訳 WAVE 出版



少女メギーと父モーは、物語を読むことで本の世界を現実とすることができる魔法の声の持ち主だ。

ある物語の中に入り込んだモーは義賊に仕立て上げられ、独裁者と戦うことになった。そしてメギーは、父を救うために自分の声の力で世界を変えようとする。

『魔法の声』 『魔法の文字』 に続く最終巻。

カオス 混沌の叫び

- 1 心のナイフ 上・下
- 2 問う者、問われる者 上・下
- 3 人という怪物 上・下



パトリック・ネス/作 金原瑞人・樋渡正人/訳 東京創元社

人間や犬などの心の声が、外に聞こえてしまう世界があった。その声はノイズと呼ばれていた。

ある日トッドは、ノイズを発しない少女に出会い衝撃しょうげきを受ける。少女の乗っていた宇宙船が墜落して、不時着ついらくしたらしい。行動を共にすることになった二人は、何故か命を狙ねらわれることになった。



浅田真央 そして、その瞬間へ (ノンフィクション)

吉田順/著 学研教育出版

フィギュアスケーター浅田真央は、2010年に大きな決断をした。オリンピックで銀メダルの実力を持つ自分自身のスケートを一から学びなおそうというのだ。

飛べないジャンプ、母の死、体の不調……。さまざまな困難を乗り越え、理想を求めて高みへ向かうため進み続けた3年間を描く。

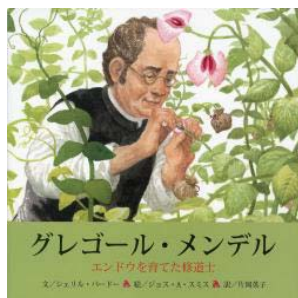


グレゴール・メンデル エンドウを育てた修道士 (えほん)

シェリル・バードー/文 ジョン・A・スミス/絵 片岡英子/訳 BL出版

子は、何故親に似るのか。遺伝いでんの謎を解明したのは、19世紀の修道士グレゴール・メンデルだった。メンデルは、実験に使う植物として、色や形の違いがはっきり見分けられるエンドウを選んだ。

誠実に研究を続けた一生と、〈メンデルの法則〉を証明するにいたった実験方法を丁寧ていねいに描いた知識絵本。



【 執筆：山崎（本館） 】